

令和6年度 利尻富士町総合教育会議 議事録

1 開催場所及び日時

- (1) 日 時 令和7年3月17日(月) 午後1時30分～2時22分
- (2) 場 所 利尻富士町役場2階 庁議室

2 出席者氏名

【町長部局】

利尻富士町	町 長	田村 祥三
	総務課長	今野 英尋
	総務係長	山本 博文

【教育委員会部局】

利尻富士町教育委員会	教 育 長	吉田 秀昭
	教育委員	佐藤 吉郎
	教育委員	寺島 信宏
	教育委員	成田 明美
	次 長	山谷 文人
	係 長	川端 ひめ

3 傍聴者 な し

4 議 題

- (1) 利尻富士町教育大綱(2024年度～2026年度)推進状況について
- (2) 部活動地域移行について
- (3) 利尻富士町学校情報化推進計画(案)について
- (4) その他

5 会議の内容

別紙のとおり

【会議の内容】

1 開 会（今野課長）

2 町長挨拶（田村町長）

平成28年2月に1回目を開催以来、9年目。本町では、小中一貫や部活動の地域移行などの教育課題が示されている。教育委員のみなさまのご意見を伺いながら総合教育会議へ反映させていきたい。

3 説明・協議事項（進行：田村町長）

（1）利尻富士町教育大綱（2024年度～2026年度）推進状況について（資料1・2：次長）

資料1については、昨年度新たに策定された大綱となっている。大綱の目標は大きく分けて3つで、表のとおり目標別となっており、主な施策を実施した。

以下、実施した主な施策について説明

1 子供たち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

- ・小中9年間を見通した教育課程の編成
- ・具体的な推進体制による協議・交流（小中コアチームなど）
- ・鴛泊小中合同運動会（児童生徒会同士との交流や連携推進）
- ・小学校高学年を対象とした中学校での英語授業（鴛小・鴛中）
- ・小・中学生の漢字・算数・数学・英語検定受検料の助成、利尻高校模擬試験への助成（とくに英検受検率については小中それぞれ12%向上）
- ・小中併置校における中学校教科担任の小学校乗り入れ授業（英語、算数、音楽）
- ・児童生徒の給食費無償化
- ・栄養教諭による食育指導（定期学校巡回、食育授業の実施）
- ・町・振興局防災部署や气象台、自衛隊等と連携した一日防災学校の取組
- ・HAC利尻島上空遊覧飛行体験・航空教室（小6）
- ・教育支援委員会と連携した特別支援学級の適正配置（新設2を含む全7学級開設）
- ・特別支援教育支援員の適正配置（鴛小2名、利小2名、鴛中1名）

2 学びの機会を保障し質を高める環境の確立

- ・各校教室・保健室への空調整備（25カ所：教室22（鴛小8、鴛中4、利小6、鬼中4）、保健室3）
- ・校務支援システム、グループウェアによる校務作業の負担軽減、効率化
- ・スクール・サポート・スタッフ配置（鴛小1名）
- ・学校デジタル化推進協議会と連携した教員のICTスキル向上のための研修（グー

グルによるレベル別ICT研修会の実施)

- ・生成AIの授業への利活用(実践校: 駕中)
 - ・スクールカウンセラー事業(道派遣)の活用(小中高への定期巡回(6回)相談体制の構築)
 - ・北海道医療大との連携事業の実施(いきいきふるさと事業助成金の活用)
- 心理科学部学生実習、専門教員・学生派遣によるフレイル予防・親子向け教室等の実施など、今後の協定締結に向けた事業の展開

3 地域との持続可能な教育の実現と生涯学習の充実

- ・公民館での集いの場の提供(高齢者向けサロン、子育て世代懇談会)
- ・こども作品展の実施(教委・学校連携)
- ・東京大学との連携による遺跡調査(小中校外授業の受入れ)
- ・学校開放の積極的な活用(実績200回)
- ・コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の開催(秋に駕泊・鬼脇地区合同会議を実施)
- ・部活動の一部種目の地域移行(国の実証事業によるサッカー協会を母体とした運営の試行実施)*くわしくは、次項で説明

【質疑なし、承認】

(2) 部活動地域移行について(資料3、実証事業報告書: 次長)

6年度進めてきた部活動地域移行の経過について、資料3に沿って説明。検討協議会の開催、サッカーの活動試行と課題の洗い出し、バドミントン協会との7年度に向けた協議を行なった。

実証事業報告書に沿って、サッカーの運営体制や指導者の確保(24名)、検討協議会でのアドバイザーによる委員への事業理解を図る機会、小6対象の体験会の実施(15名参加)、オンライン指導やHPの作成、地域ボランティア、今後の展開・ロードマップについて説明。

(町長) 委員のみなさまから質問はありますか。

(佐藤委員) サッカーの指導者は24名と大変多いが、バドミントンは。

(次長) 主体的に動けるのは、5~6名。

(佐藤委員) 利尻町にもサッカー、バドミントンはあるのか。練習試合などお互いしながらなのか。

(次長) サッカーはないが、バドミントンは部活がある。大会や指導者同士の交流など

も行われている。協会に所属している指導者は、地域の方ばかりでなく学校の顧問の先生なども含まれる。

(町長) 中体連はどういう立場で出るのか。

(次長) バドミントンは、クラブで出ると参加人数枠があるので、中学校単位の部活動として出場する。

(教育長) クラブで出ると参加人数が限られる。

(町長) サッカーはクラブで出るのか。大会の引率旅費は。

(次長) サッカーは、来シーズン15名ほどと聞いているのでクラブでの出場が可能。引率旅費は、実証事業の中の予算で計上。

(町長) 実証事業がなくなった場合は。

(次長) クラブや保護者の負担も出てくるかもしれない。中体連については、町補助金で賄ってきているが、ほかの大会は部活動の時から保護者の負担があった。

(教育長) 子どもたちの部活動は学校で担うものと基盤ができてしまっているが、本来は学校の先生の業務ではないと再認識され始めた。地域移行という名称も学校から部活動をはがすようなイメージであまりいい名称とは言えないところがある。

(町長) 少年団とクラブ(中学生)との違いが何か問題も出てくるかもしれない。

(教育長) 実証事業は北海道でも29カ所しかなく、管内では本町だけで、必ずしも進んでいない現状もある。

(佐藤委員) 都市部などなら、指導者も確保できて色々な面から体制が組めるが、小さい地域だとこういう事業に頼っていかないとならない部分もある。

(次長) 今は先生の中にサッカーの指導者がいるが、異動でいなくなったときに地域で体制を整えておかないと破綻してしまう恐れもある。

(成田委員) サッカーは団体スポーツなので、人数が減ると立ちいかなくなるのではな
いか。

(次長) フットサルに移行するなどの手段はある。

(寺島委員) 5名いれば可能。今年は、当初枝幸と合同で大会に出たケースもあった。

(3) 利尻富士町学校情報化推進計画(案)について(計画資料:教育長)

計画資料に沿って説明。

1 ページ 変化の速い時代、学びの変化、学習指導要領の改定など、学校現場と共通認識を持ちながら進めたい。期間は、学校教育推進計画と合わせている。

7 ページ K P I、業績目標を4つ立てながら進める。とくにG I G A端末の更新(今議会で予算可決、227台を更新)と、先生方へのI C T環境に関するアンケート実施(満足度調査、R 1 0までに90%)。

9 ページ 教職員の指導力向上。スキルの差を埋めていきたい。I C Tの活用が得意な先生をR 1 0までに50%にしたい。

10ページ 学校DXの推進。働き方改革や意識改革（個人情報保護の取扱いなど）を図る。校内での置き忘れ事例など出てきているため。

12・17ページ 児童・生徒のメディアやICTとの関わり。全国と比べてゲームなど時間が長い。

19ページ 学習でICTを活用すると友だちと考えを共有したり比べやすくなるかについては、半分があまりそう思わないと回答。

20ページ～ 教職員向けアンケート ICTは得意でない、学びの変化は感じるなどの意見がある。

本計画をもとに第2期のGIGAスクールに向け、推進していきたい。

最終的には、新年度に入ってから学校デジタル化推進協議会に諮り正式なものとしたい。

（４）その他

（成田委員）生成AIの活用とは、先生が使うのか。

（教育長）授業の中で活用。子どもも使っており、質問をAIに投げかけて、答えを導き出す。

（成田委員）うまく使うと文章に肉付けできたり、自分が考えもしない文章を考えてくれてとても学びがある。子どもの活用も、先生がチェックすればいいものになると思う。

（教育長）これからは5年単位くらいでどんどん進化していく分野かと思う。仮想空間での授業なども出てくるのではないかな。

以 上

（議事録作成者：教育委員会次長 山谷 文人）